

審議会等の会議の記録

会議の名称	第5回伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会
開催日時	令和4年12月16日(金) 14時00分～15時50分
開催場所	伊勢崎市上下水道局 会議室
出席者氏名	[委員] 熊倉委員長、平川副委員長、加藤委員、清水委員、江原委員、 吉田委員、細野委員 [事務局] 尾島上下水道局長、井野副局長兼総務課長、 西目下水道施設課長、五十嵐下水道整備課長、 糸井下水道整備課計画係長、土屋総務係長、関野経理係長、 三上経理係長、菊池料金係長、石川主査、遠山主査 [受注者] 横浜ウォーター株式会社
傍聴人数	0名
会議の議題	・経営戦略改定(案)について
会議資料の内容	・次第 ・伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・席次表 ・資料1「伊勢崎市下水道事業経営戦略 改定(案)【概要版】」 ・資料2「他市との比較について」

会議における
議事の経過
及び発言の要旨

【第5回検討委員会】

1. 開 会

2. 議 題

・経営戦略改定(案)について

事務局から資料1「伊勢崎市下水道事業経営戦略 改定(案)【概要版】」資料2「他市との比較について」に基づき説明があった。

【質問・意見】

委員長：今の説明で質問や確認があればご意見をいただきたい。まず、I. 経営戦略策定の趣旨について、ご意見をいただきたい。

委員：もう少し文章が長いほうが良いのではないか。

受注者：文章については、情報量が多いため概要版はポイントをまとめた。経営基盤を改善する手法として、どのような課題があり、その中で既存の経営戦略をどのような視点で変えていくのかを示している。

委員長：課題を具体的にどう進めて行くのか理解をしていただくために、もう一度情報量として良いのか確認していただきたい。

では、次にII. 下水道事業等の現状と課題について、図やグラフは見づらくないか。分かりづらい言葉はないか。

委員：1.と2.で現状が重複しているのではないか。

委員長：1.は種類と現状で2.は課題で良いのではないか。

事務局：2.課題に変更します。

委員：文字が小さくて少し読みにくいと思う。

委員長：コンパクトが良いが、もう少し大きな文字で空白があってページ数が増えたとしても良いのかもしれない。

委員：図の配色がわかりにくい。ピンク色が整備済だと思った。

委員長：配色について少し考えてみて欲しい。

委員：図の下の文章について、合併浄化槽のことが突然出てくるのもう少し説明が必要だと思う。

委員長：当時の国交省が進めてきた公共下水道と、環境省が、公共下水道が入らないところは合併浄化槽で汚水処理を推進する流れと、農業地域で公共下水道と同じように処理する農業集落排水事業があり、それぞれの経緯と努力目標が重なっていて分かりにくくなっている。公共下水道の整備が進まない地域については、「合併処理浄化槽（個人設置）への切り替え促進を含め」ということを丁寧に説明した方が良いと思う。

委員：群馬県が導入している「下水道等と浄化槽のベストミックス」について説明してもらおうと思う。

委員長：【事業別汚水処理人口】の円グラフについて、公共下水道から合併浄化槽までのところに外側に「適正な処理が行われている区域」など記載した方が分かりやすい。単独浄化槽の「未普及」は良いと思う。市民の皆さんが分かりやすく、どうすれば伊勢崎市の下水道事

業と全体の汚水処理率が上がっていくのか考え、そのためには投資も必要で、市民の負担もある程度考えざるを得ないと思う。

副委員長：「環境部」と記載があるが市民の皆さんはどの部署かすぐ分かるのか。

委員：初めて聞いた。

委員長：組織の中に「環境部」があるということだと思うが、この箇所は下水道事業を進められない地域については、合併浄化槽を個人が設置することで、合併浄化槽と公共下水道をベストミックスし、汚水処理率を上げていく必要があるということよろしいか。

委員：わかりやすいと思う。

委員長：Ⅱの2. 下水道事業の課題（1）、（2）、（3）について、ご意見はあるか。

副委員長：（1）、（2）について表現が分かりづらいので、もう少し変えた方がよい。下の3行については（3）に付いているのかと思うが、（2）の「生活環境」とは何なのか分かりづらいので、もう少し具体的な表現にしてみてもどうか。

委員長：冊子になるものについては、（1）、（2）、（3）その下の3行についても同様な表現になっているのか。

受託者：はい。先程のご質問の「生活環境」とは、排水処理のことでご自宅の周りの水路や、蚊の発生などを防止するという趣旨で「生活環境」と書かせていただいた。

副委員長：そうすると、排水路など下水道に関連する用語を選んだ方がより分かりやすいと思う。

受託者：加筆したいと思う。

委員長：（1）、（2）についてはどのように考えているか。

受託者：（1）については検討委員会で議論となっていた河川の水質基準について、（2）については家庭の中で生活雑排水が水路に流れるので水に関する生活環境の悪化を改善する必要があるという趣旨を2～3行程度入れられると思う。

委員長：（1）はBODについて具体的に書くことができると思うので、（2）についてはもう少し工夫が必要かもしれない。市民の方が公共下水道や合併処理浄化槽の設置を一層高めていただけるような文章が良い。

P2の「令和3年度末 汚水処理人口普及状況」のグラフについては群馬県が公表しているものになる。「汚水処理施設整備人口・汚水処理人口普及率の推移」のグラフについて、ご意見はあるか。

副委員長：上のグラフ「令和3年度末 汚水処理人口普及状況」の下、「出典：群馬県HP」のアンダーラインは必要なのか。また、青字になっているが黒字で良いのではないか。

受注者：修正させていただきたい。

委員：P2の上のグラフの中で合併処理浄化槽が27.6%と書いてあるが、P1の円グラフでは27.5%になっているがなぜなのか。

事務局：P2のグラフについては、合併処理浄化槽に特定地域

生活排水処理が含まれているので27.6%になる。

委員：一つにまとめることはできないのだろうか。

受注者：事業がそれぞれ分かれているので、別々に記入する必要がある。

委員長：では、「合併処理浄化槽27.6%には特定地域生活排水処理が含まれている」と説明した方が良いのではないか。

受注者：注記を入れ修正させていただく。

委員長：(4)については老朽施設の補修や更新の必要性について書いてある。内容は2つで、電気設備の更新が急務であることと、管渠についてはまだ大丈夫だが更新が始まるため、いずれもストックマネジメント計画どおり進め、また投資が必要であることが書いてある。「ストックマネジメント計画」について注記や但し書きを付け加えた方が良いと思う。

受注者：注記を入れさせていただく。

委員長：グラフについてはどうか。

委員：小さくて見づらいと思う。

委員長：ページが増えたとしても、もう少し文字を大きくして見やすくした方が良い。

委員：下水道が供用開始をして45年が経過していて管渠の耐用年数は50年で、現在、処理場の耐震補強整備を始めていると思うが、管渠の整備があと5年で始まると、その間に費用がかかってしまい、まだ供用されていない地域を優先的に整備していかないと管渠の整備と一緒に、整備が進まなくなるのではないか。

事務局：管渠の法定年数は50年だが、管渠の修理点検をし、使える物は使っていくという考え方もある。また、市街化区域を終わらせれば更新計画によって入れ替えられるのではないかと思う。

委員長：もう少し分かりやすい文章を考えていただきたい。

副委員長：P2の真ん中の図の凡例とP1の凡例の色が一致していないので、同じ意味であるなら統一した方が見やすいと思う。

委員長：市民の方が見た時に、同じ色で大きな図面は統一した方が同様に把握でき、イメージしやすいと思うので検討していただきたい。

事務局：図面の色を見やすい色に変更したい。

委員長：(5) 財政の健全化の必要性について、ご意見はあるか。

副委員長：グラフの下の文章で「経常収支比率・経費回収率」について計算方法など説明があった方が良い。

委員長：収益的収支や資本的収支など普段使わない言葉が出てきて、難しい文章なので市民の皆さんに分かりやすいように書いて欲しい。

委員：収益的は会社の経営と同じで、資本的は非営利の部分になるかと思うので、企業としてみた場合の収支は100%を超えているから良いのだということが、市民の方に理解してもらえるようなニュアンスで書いてあるということではよろしいのか。

委員長：経常収支と経費回収を別々に表記してはどうか。

受託者：分かりやすい言葉を選んで表記したいと思う。例えば収益的収支は一般家庭でいう生活費で、資本的収支は将来のための投資という感じになる。

委員：分かりやすいと思う。

委員長：グラフで公共下水道・農業集落排水・特定地域生活排水で単位がそれぞれ違うのだが同じグラフでいいのか。

委員：単位を目立つよう表示してはどうか。

受託者：一度同じ単位でグラフを作ってみたが、特定地域生活排水が目立たなくなってしまった。

委員長：3事業をそれぞれ分けて表記してみた方が良いのではないか。

委員：文章の中で「基準外繰入金（下水道を使用していない市民の方の税金を含む）」と書いてあるが誤解を招くので必要ないのではないか。

事務局：入れた理由は、下水道使用者に費用の負担をしていただくのが基本原則で、使用していない方の税金を使うのではなく、使用料で賄っていただきたいので料金改定が必要になる。

委員：計画地区であれば下水道が入っていてもなくても負担するのは仕方ないのではないのか。

事務局：例えば道路や公園は誰でも使えるが、下水道は、区域外は使いたくても使えないので、やはり使用している方に負担していただきたい。

委員長：もう少し良い表現がないだろうか。現状では、下水道を使用している方からの使用料と税金だけでは賄えない状況にあるという言い方を、使用していない市民の方ではなく、使用できないという言い方のほうが良いのでは。少し工夫が必要だと思う。

副委員長：下水道を使用していないのではなく、使用したくても出来ないという言い方ではどうか。

委員：下水道が布設されていない区域の方々の税金ではどうか。

副委員長：伊勢崎市は下水道の管渠が来ていてもつながなくてもいいのか。

事務局：布設されていても使わない人もいる。使用できない方もいるし、使用しない方もいるかと思うので、言葉についてはこれから選びたいと思う。

委員長：下水道を使用している方の使用料で賄いたいが、現状ではそうならないということを素直に書いた方が良いと思う。

事務局：P 1 のⅠ. 経営戦略策定の趣旨に改定、値上げの必要性の理由を書き込むことを検討したい。

委員長：P 3 のⅢ. 経営戦略の基本方針に入れてはどうか。

Ⅲ. 基本方針は伊勢崎市の総合計画に沿った文章になっている。

[下水道事業の課題]の中で、「雨水対策の必要性」はP 1 のⅡ. の2. 現状と課題には書いていなかったもので、入れた方が良くと思う。その他分かりにくいところが

あればご意見をいただきたい。

委員：ストックマネジメントについて言葉の意味を教えて欲しい。

委員長：設置された施設をどのように運営、更新していくのか。家に例えると補修計画のような感じですか。それについては注記を入れるということではよいでしょうか。

P 4 の表で「農業集落排水の公共下水道への編入」の施設の数、8施設から7施設の編入と読み取れるのではないかと。

委員：1施設は三郷地区で、あと5施設（あずま向原、あずま国定、赤堀香林、赤堀曲沢、間野谷）を将来的に公共下水道に編入する計画を明記して欲しい。

委員長：この表記だと10年で1施設のみ編入のように読み取れる。

事務局：群馬県が群馬県広域化・共同化計画汚水処理計画を策定準備中で、今後、群馬県のホームページで公表されるかと思われるが、その計画で令和14年度までに1施設（三郷地区）の公共下水道への編入を計画し進めている。

委員長：そうすると、7施設は令和14年度までに農業集落排水施設として残るということでよろしいか。

事務局：はい。広域化・共同計画で一部明記してあるが、残りの農業集落排水施設も公共下水道に編入した方が良いかどうかを検討することが明記されている。令和9年から14年までの5か年間くらいで編入について検討し、実際に効果があると認められた施設を令和15年度から編入することを検討していく計画になっている。

委員：P 5 の[経営指標]の中でも農業集落排水というのは、経費が非常にかかり効率が悪いので経営戦略としては、農業集落排水は公共下水道に編入した方が、企業経営の健全化になると思う。

委員長：財政計画は令和14年度までに7施設になった段階での数字になるのか。

事務局：はい。まだ7施設ある条件でのものになる。

委員長：そうすると、施設の数書き方が分かりづらいので残存施設など、もう少し分かりやすく表記をお願いしたい。

事務局：書き方についてはもう少し分かりやすくなるよう検討したいと思う。先ほど統合を明記した方がよいという話も出ていたが、現在、経済比較等を検討して三郷地区は編入の方向で動いているが、その他の地区についても経済比較等検討し編入した方がよいのか、あるいは大型の浄化槽で処理した方がよいのか必要となってくるので、明記は避けたいと思う。

委員長：では、「解説」部分の書き方を「公共下水道事業へ編入を進める」とした方がよいと思う。

委員：編入しても処理能力には問題はないのか。

事務局：三郷地区の編入についての処理能力には問題ない。今後、7施設については汚水処理量、伊勢崎浄化センターや平塚水質浄化センターの増設なども含め検討してい

きたいと思う。

委員長：市民が不安にならないように、そして望ましい処理率が上がるように進めてほしい。

IV. 投資財政計画についてご意見はあるか。

委員：「15%×3回」より「10%×3回」の方が良いのではないかな。

委員長：そうすると、「15%×3回を現段階ではシミュレーションを基本に考えます」の方が良いかと思う。

一番問題になるのは4番目のことで、市民の皆さんが納得していただけるのかが一番のポイントになると思う。この国の要件を先に書いた方が良いのかもかもしれない。要件を実施すると、シミュレーションとして令和14年度までの間に3回の段階的な料金改定を実施したい。数値としては15%でシミュレーションしますと。10%だと厳しいのかな。

事務局：はい。10%×3回では国の要件である150円に届かない。

委員長：来年の審議会では15%値上げをすることを念頭に置いたうえで、基本料金と従量料金でということがポイントになると思う。なので、国の要件に基づく取り組みの実施を3番目に書いて、その結果、10年間の間に3回、各15%ずつ料金改定を検討しますという書き方のほうがよいのではないかな。

委員：段階的とは3年ごとくらいか。

事務局：令和6年、10年、14年に15%ずつ上がっていくことになる。

委員：わかりました。

委員長：下水道を使用している方の負担で、できるだけ全体を回していきたい。税金の投入をできるだけ避けたい。そして国の言うようなバランスの取れた収支にするためには、こういう形で上げざるを得ないというのが流れである。

委員：現在の使用料金はいくらなのか書いてないのかな。

事務局：P5の「使用料単価」公共下水道103.2円、農業集落排水100.4円、特定地域生活排水99.2円となる。

委員長：[経営指標]の中だけではなく本文にも入れた方が良いでしょう。

委員：今、いろいろな公共料金が上がっているのでタイミング的にもう少し猶予があると良い。

委員長：確かに市民の方はいろいろな公共料金が上がっている中で下水道使用料も上がるというのは大きな不安を招くことは確かである。ただ、改定を考えざるを得ないので、実際の料金は料金審議会ですっかり議論していただきたい。国が全国的な状況を判断して単価を設定しているので、これに対応することを含め値上げせざるを得ませんということで委員会としては進めましょう。

年末になってしまうが修正し、各委員にもう一度資料をお渡しし、最終的に年内にまとめ、2月のパブリックコメントに預けたいと思う。

	<p>全体を通して他にご意見はあるか。</p> <p>委員：値上げは必要不可欠だと思う。</p> <p>委員：国が出している要件なので仕方ないと思う。</p> <p>副委員長：P 4とP 5のグラフの書き方について、数字の方が重要であれば少し入れた方が良く思う。P 3のⅢ. 経営戦略の基本方針の枠の中○印と、P 2の下の○印など統一した方が良く思う。</p> <p>委員長：説明した内容を文章に置き換えた方が市民の皆さんも分かりやすいと思う。年末までに修正をお願いしたい。</p> <p>3. その他</p> <p>次回第6回検討委員会は、令和5年3月17日（金）の午後、伊勢崎市役所にて開催予定。</p> <p>4. 閉会</p>
--	---